

福祉生活病院常任委員会資料

(令和4年12月20日)

【 件 名 】

- 新型コロナウイルス感染症への対応について
(新型コロナウイルス感染症対策推進課) . . . 2

- 新型コロナウイルスワクチン接種に向けた取組状況について
(新型コロナウイルスワクチン接種推進チーム) . . . 4

新型コロナウイルス感染症対策本部事務局

新型コロナウイルス感染症への対応について

令和4年12月20日
新型コロナウイルス感染症対策推進課

1 県内における感染者の発生状況

(1) 第7波の感染者数（令和4年6月20日～9月30日、発表日ベース）

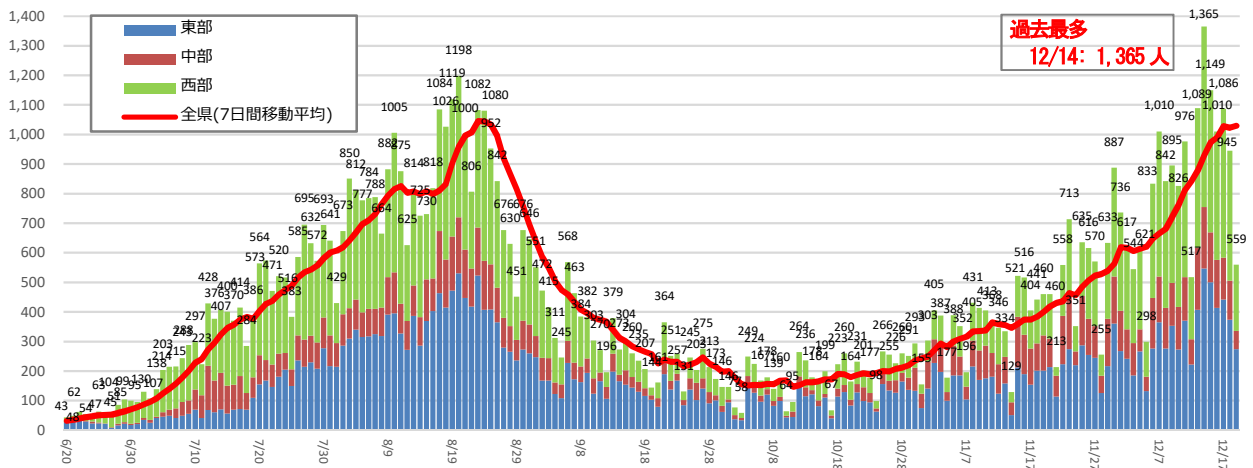
47,064名（鳥取市保健所18,937名・倉吉保健所7,169名・米子保健所20,958名）

(2) 第8波の感染者数（令和4年10月1日～12月19日、発表日ベース）

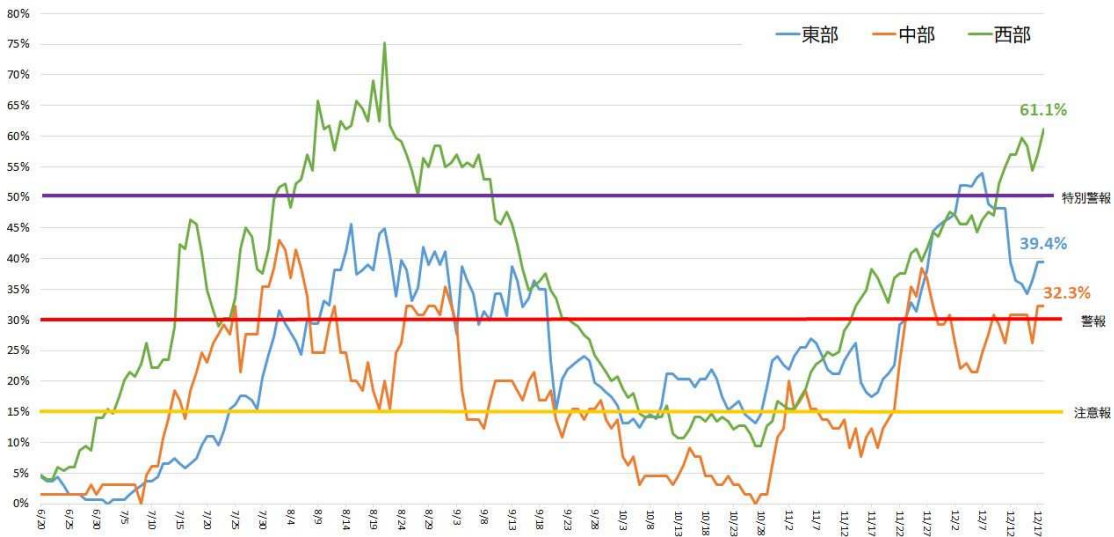
34,510名（鳥取市保健所15,043名・倉吉保健所6,416名・米子保健所13,051名）

（参考）累計感染者数 97,424名（鳥取市保健所40,539名・倉吉保健所15,503名・米子保健所41,382名）

＜新規感染者数の推移＞



＜病床使用率の推移＞



(3) 第7波以降のクラスター発生状況（令和4年12月19日現在、発表日ベース）

区分	鳥取市	倉吉	米子	分類計	(参考) 累計発生件数
学校等	42	29	47	118 (23%)	157 (23%)
保育所等	34	22	46	102 (20%)	133 (20%)
高齢者施設等	69	30	85	184 (36%)	209 (31%)
事業所	22	10	33	65 (13%)	84 (13%)
医療機関	11	10	7	28 (5%)	36 (5%)
飲食店	0	0	1	1 (1%)	20 (3%)
その他	3	2	6	11 (2%)	31 (5%)
管内計	181 (36%)	103 (20%)	225 (44%)	509 (100%)	670 (100%)

(4) 第7波以降死亡者数（令和4年12月19日現在、発表日ベース）※括弧内は累計死亡者数

死亡	うち新型コロナウイルス感染症を死因とする死亡
118 (138)	35 (43)

2 第8波対策の基本方針

第8波の感染急拡大に対して、次のような基本方針で対応することを12月14日の県対策本部会議で決定し、医師会、薬剤師会など関係機関と共有した。

＜第8波の特徴＞

- BA.5系統や急増するBN.1、流行が懸念されるBQ.1.1系統は非常にうつりやすく、家庭・職場・施設内で一気に広がる傾向（特に子ども同士の感染が拡大の端緒となる事例が多い）
- オミクロン株は重症化率は低いものの、高齢者施設や医療機関に入り込んで感染拡大することで、高齢者を中心に基礎疾患等の症状悪化につながる事例が増加
- 多くの感染者が発生する一方で、重症化が少なく冷静な対応が必要

＜対策の基本方針＞

- 医療機関のコロナ対応やPCR検査体制が充実している本県の特性を活かし、命と健康を守る対策を重点実施
- 症状、重症化リスク、診断等に応じた治療薬の適切かつ早期の投与
 - ・医療機関・薬局に対し、初期段階での治療薬（ラゲブリオ、パキロビッド、ゾコーバ等）の処方対応を要請（特に高齢者施設での早期投与を推進）
- 外来診療・投薬体制の強化
 - ・年末年始に開業する医療機関・薬局の確保、在宅療養者への薬剤運送体制の整備
- 感染予防・拡大防止（市町村と協力し、基本的感染防止対策徹底を呼びかけ）
- 市町村、医療機関、事業所、学校等と協力し、ワクチン接種を呼びかけ
- 外来ひっ迫や年末年始に備え、抗原検査キットや解熱剤等の市販薬の備蓄を呼びかけ
- 積極的かつ幅広いPCR検査で感染連鎖を早期囲い込み
- コロナ病床確保、回復患者の転院受入れ促進、宿泊療養の活用による病床ひっ迫回避

3 各種要請・警報の発令状況（令和4年12月19日現在）

（1）特措法第24条第9項による協力要請

区 域 鳥取県全域

期 間 令和4年11月24日から令和5年1月13日まで

要請内容

- 基本的感染防止対策の徹底
 - ・距離が確保できない場合や会話を行う場合など場面に応じたマスクの着用
 - ・感染リスクを下げるため、密を避けて人と人との距離の確保（2m程度）
 - ・寒くてもエアロゾルを意識した換気・手洗い・手指消毒の徹底
 - ・人ごみなど密な場所への立ち入り時には特に注意を
- 無料PCR検査の受検
 - ・帰省等の県外往来や大きなイベント参加の際は積極的に無料検査を受検
- ワクチンの接種促進
 - ・発症予防や重症化予防のため、できるだけ速やかにワクチン接種を（年末年始までに）
- 会食・イベント参加時の感染防止対策
 - ・忘年会や同窓会などの会食の際は、大人数を避け、マスク会食を徹底
 - ・イベントの前後も含めて大騒ぎしないなど感染拡大を起こさない行動の徹底
- 体調不良時の受診
 - ・体調が悪ければ絶対に登校・出勤せず、医療機関を受診（クラスター多発の原因です）
- 解熱剤・抗原検査キットの準備
 - ・今後の感染拡大に備えて各家庭で市販の解熱剤や抗原定性キットなどを準備

（2）鳥取県版新型コロナ警報（令和4年12月19日現在）

地域	発令状況	備考
東部	特別警報	12月6日～
中部	警報	11月27日～
西部	特別警報	12月13日～

（3）新規陽性者の動向を踏まえた注意喚起情報（令和4年12月19日現在）

地域	発出状況	備考
東部	感染急拡大嚴重警戒情報	12月14日～
中部	感染急拡大嚴重警戒情報	12月14日～
西部	感染急拡大嚴重警戒情報	12月14日～

（4）本県のレベル移行判断目安の指標状況（令和4年12月19日現在）

○本県のレベル：レベル2

○判断指標（算定基準日：令和4年12月18日、直近1週間：令和4年12月12日～18日）

指標	数値	算式
新規陽性者数(対人口10万人/週)	1,301.6人	7,203人/55.3万人×10万人
確保病床使用率(※)	47.3%	166床/351床
重症者用確保病床使用率	19.1%	9床/47床（うち重症者0名）

※他県で確認された陽性者が使用する数を含む場合があります。

※重症者以外が使用している数を含む場合があります。

新型コロナウイルスワクチン接種に向けた取組状況について

令和4年12月20日
新型コロナウイルスワクチン接種推進チーム

1 本県の接種状況

(1) 総接種回数の内訳及び接種率 (12月15日現在)

(全国)

全年代	1回接種者	2回接種者	3回接種者	4回接種者
接種回数	102,817,795	101,667,569	84,822,275	52,271,203
人口当たり接種率	81.65%	80.74%	67.36%	41.51%

(鳥取県)

全年代	1回接種者	2回接種者	3回接種者	4回接種者
接種回数	447,455	443,014	368,960	238,892
人口当たり接種率	81.12%	80.31%	66.89%	43.31%

※1・2回目の医療従事者の接種数は令和3年8月2日までにV-SYSに登録された数

※一般接種及び3回目以降の接種数はVRSに登録された数を計上

※3・4回目接種の接種回数は、オミクロン株対応ワクチン接種の回数を含む。

(2) オミクロン株対応ワクチンの接種状況 (12月15日現在)

全国	
接種回数	35,681,403
人口当たり接種率	28.34%
鳥取県	
接種回数	167,300
人口当たり接種率	30.33%

オミクロン株対応ワクチン接種状況(都道府県別、年齢階級別、接種率)

(12月12日公表時点)

	12歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
全国平均	14.0%	12.8%	15.9%	22.5%	34.9%	32.3%	36.5%	43.0%	42.0%	33.4%	25.5%
鳥取県	15.3%	14.4%	16.7%	23.2%	35.4%	34.3%	40.5%	47.5%	43.3%	36.7%	31.2%

※首相官邸ホームページ発表数値(毎週一回更新)

(3) 小児(5～11歳)の接種状況 (12月15日現在)

全国	1回目	2回目	3回目
接種回数	1,723,243	1,634,994	486,059
人口当たり接種率	23.55%	22.34%	6.64%
鳥取県	1回目	2回目	3回目
接種回数	8,821	8,495	2,617
人口当たり接種率	26.62%	25.63%	7.90%

(4) 乳幼児(生後6か月～4歳)の接種状況 (12月15日現在)

全国	1回目	2回目
接種回数	72,708	18,193
人口当たり接種率	1.81%	0.45%
鳥取県	1回目	2回目
接種回数	311	121
人口当たり接種率	1.71%	0.67%

2 県の取組状況

(1) 接種促進の取組

国が定める1日100万回の接種目標を達成するため、本県では1日5千回を目標に、市町村、医師会等関係機関と連携・協力して接種体制を構築し接種を進めている。

※11/19：5, 227回、11/26：5, 749回、12/3：6, 291回、12/10：5, 416回

12月に入り感染が急拡大する中、希望する県民が速やかに接種できるよう、県営接種会場の予約枠を最大2.5倍まで拡大し、市町村や医療機関にも予約枠拡大を呼びかけた他、テレビCM等メディア広報を通じて、できるだけ速やかなワクチン接種を呼びかけている。

また、学校等でのクラスターが発生していることから、ワクチンバスを高等学校にも派遣し、若年層の接種を促進している。

(2) 乳幼児接種について

県庁にワンストップ相談窓口を開設し保護者の情報収集を支援している他、保育所・幼稚園に出向いての保護者向け説明会や、定期健診（生後6カ月、1歳半、3歳児）時に、接種の有効性・安全性を紹介するチラシを配布する等保護者の不安解消に努め、接種協力医療機関への財政支援による接種専用時間帯開設により、接種に行きやすい体制を整備している。

3 予防接種法に基づく医療機関からの副反応疑い報告状況について（12月19日時点）

前回報告時（11月21日）から副反応疑い報告件数の増加はなし。

ワクチンの種類	推定接種回数	副反応疑い件数	副反応疑い報告率	
			うち死亡報告数	うちアナフィラキシー報告数
ファイザー社 （従来株）	1,096,626	71 0.0065%	11 0.0010%	17 0.0016%
ファイザー社 （BA.1対応）	28,160	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
ファイザー社 （BA.4-5）	122,750	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
小児ファイザー	19,933	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
モデルナ社 （従来株）	299,555	5 0.0017%	0 0.0000%	0 0.0000%
モデルナ社 （BA.1）	15,452	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
モデルナ社 （BA.4-5）	938	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
アストラゼネカ社	64	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%
武田社 （ノババックス）	517	0 0.0000%	0 0.0000%	0 0.0000%

(参考) 国の動き

12月13日、来年4月以降の新型コロナワクチンの接種のあり方について、国の専門部会において議論が始まった。今後、接種目的を明確にした上で接種計画の検討をし、ワクチンの安全性及び有効性の持続期間、新型コロナの疫学的状況・感染症法上の位置づけ等を考慮し、年明けにも具体的な方針を話しあうこととされた。国の計画が示され次第、国方針に基づいて、県としても早期に対応していくこととする。